

秩父別町地域おこし協力隊体験談



カボチャの定植作業の様子

だんだんと失われていくのを感じていました。
また、家と職場の往復の毎日で、職場の人以外との関わりもほとんどなく、なんとなく味気ない日々を過ごしていました。

2. 秩父別町への移住のきっかけやその際の心境変化の状況

初心が失われていくのを感じる中、ふと、毎日扱っている野菜を「どんな人」が「どのように」育てているか全然知らないことに気づき、生産者さんの顔が見えない働き方に疑問を持つようになりました。そんなとき、札幌で開催された地域おこし協力隊の合同募集フェアに参加しました。様々な市町村の話聞きながら、農業が身近にある暮らしや、田畑に囲まれた町の風景に魅力を感じました。中でも印象に残ったのが、楽しそうに町の人と交流する先輩協力隊の写真です。「田舎だとヨソモノはなかなか受け入れてもらえない」という先入観を多少なりとも持っていました。その写真からは、協力隊が町の人に温かく迎え入れてもらっていることがひしひしと伝わってきました。ワクワクする生活が待っているような気がして思い切って応募してみたところ、運良く採用していただくことができました。

3. 町での仕事や生活をしてみての感想

秩父別にはおおらかで温かい人が多く、面白いことや楽しそうなことがあると新参者の私にも声をかけてくれます。おかげで退職することなく毎日を過ごしています。採れたてのブロッコリーやトマトなどの野菜を分けていただく機会が

多く、野菜そのもののおいしいのはもちろん、野菜を作っている人の顔を浮かべながら食べる食事は格別だなと感じています。

また、家のすぐ横が田んぼなのですが、夏になると家のどこにいてもカエルの声が届きます。私はカエルが好きなので、思わぬラッキーポイントでした。



水稲ハウスでの作学

名前 **其田 もも子** そのだ こ

1. 移住前の仕事や生活環境

大学時代からずっと食に携わる仕事がしたいと思っていて、卒業後は野菜を扱う食品メーカーに就職しました。毎日たくさん野菜を食べて（検査のためです！）、加工した野菜をさらに食べて（……検査のためです！）、商品となって出荷されていくのを見守っていました。一方で仕事が忙しく、「いいもの・おいしいものを届けたい！」という初心が

〈1年目〉

1年目はまず秩父別を知ることから始めました。農家さんのところへお邪魔して農業体験をさせていただきました。町の加工センターで町民の方と加工品を作ったり、たくさんのお話を体験しました。その中で、秩父別では大豆を作っていることや、加工センターで豆腐作りを経験したことがきっかけで、秩父別産の大豆で作った豆腐を開発しました。豆腐は町のイベントで販売しています。

また、秩父別に来て間もないころ、過去に町民グループでかぼちゃのポターージュを販売していてとても人気があった

こと、人手不足等の理由により現在は販売していないことを聞きました。このかぼちやのポタージュをなんとか復活させたいと思い、かつてかぼちやのポタージュを作っていた方からレシピを伝授してもらい、秋ごろより「かぼちやのポタージュ」の開発・製造販売を開始しました。

〈2年目〉

前年度同様に、豆腐・かぼちやのポタージュの販売を行っています。

また、加工だけではなく作るのもちやんと知っておきたいと思い、かぼちや農家さんにお邪魔して種まきや定植を経験させてもらったり、元協力隊員が日帰り農園で育て始めた大豆のお世話を手伝わせてもらいました。育てることの大変さを知ること、「おいしいものを作りたい」という気持ちさがさらに強くなったように感じます。

さらに、協力隊という限られた期間の中で、任期終了後も活動の成果を残していきたいと思ひ、協力隊の枠を飛び出し町の方とグループを結成して、特産品開発や、ほぼ秩父別町の食材だけで作ったお弁当の販売なども行っています。



イベントでの豆腐販売準備

4. 今後の仕事や生活の展開予定

協力隊期間中は、これまでと同様に秩父別町の農産物を使った特産品の開発・販売を行いたいと思ひます。また、作ったものを町に残せるような土台作りも併せて行っていきたいと思ひます。



お気に入りの風景

参考1…町の面白いところ又はお気に入りの場所
冒険の森の坂道から町を見下ろす風景がお気に入りです。道がまっすぐどこまでも伸びていて、その両側には畑と田んぼが広がっています。その見渡す限りの大自然と、季節ごとに色を変える田畑の眺め、さらに森を抜ける気持ちいい風はここでしか味わえないでしょう。

参考2…応募する協力隊向け一言アドバイス

役場の方が町の方とのパイプをつなげてくれるので、「まさに馴染めるか」という点においてはあまり悩む必要はないと思ひます。もちろん、そのあとは自分から関わっていくことが大切ですが、みなさんあたたかく迎え入れてくれます。また、旭川まで車で1時間、札幌までも高速道路で1時間半程度の距離なので、買い物に不便することもほとんどありません。

あとは自分のやりたいこと・やりたい仕事をしっかりと持っているならば、楽しい田舎生活が送れますよ